

## 長崎県植物誌ノート(27)

(長崎県新産の帰化植物)

中西 弘 樹<sup>1)</sup>

### Notes on the Flora of Nagasaki Prefecture (27)

Hiroki NAKANISHI<sup>1)</sup>

**Abstract** : Twenty-four alien species which were newly found in Nagasaki Prefecture were described in this paper. Alien plants chiefly found in tropical and subtropical areas occur in recent years. This tendency may be due to the global warming.

#### はじめに

本研究は長崎県のフロラの解明を目的とするもので、主として外山(1980)の「長崎県植物誌」および松林(1981)の「長崎県シダ植物誌」の目録に記されていない、いわゆる県新産の植物と、希産種の産地追加を記録する。記載の形式は前回までと同様であり、市町村名は採集当時の名称を使用した。今回は新産の帰化植物をまとめて示すことにする。

#### 最近の帰化植物の動向

海外との交流が盛んになるとともに、自然の破壊が進み、山間地まで工事などによって裸地化し、帰化植物が全国的に多くなっている。ウラボシチチコグサは20年ほど前に西彼杵郡大瀬戸町で発見したが、今では県下全域に広がっており、以前から知られていたチチコグサモドキよりも多くなった。オッタチカタバミは1990年に長崎市中心部に帰化しているのに気がついたが、今では市街地に広がっている。最近では毎年のように新しい帰化植物が侵入しているが、以前から沖縄や熱帯・亜熱帯地域で知られていたものが見られるようになったことは、地球温暖化と関係があるのではないかと思われる。その

主なものは、ゴゴメミズ(中西2000)、ブラジルコミカンソウ(中西2002a)、イリオモテニシキソウ(中西2002b)や、今回記載するランタナ、ボタンウキクサ、オオトキワツユクサ、フウセンカズラなどである。

#### 県新産の帰化植物

281. バケヌカボ *Agrostis × dimorpha* Ohwi (イネ科)

西彼杵郡長与町三根郷[長崎1, 4929-17-71], 80m, July. 17. 2004, (No. 19672)

コヌカグサに似ているが、同じ花序に有芒小穂と無芒小穂とが混じっているのが特徴である。

282. スズメノナギナタ *Parapholis incurva* (L.) C. E. Hubb. (イネ科) (図1)



図1 スズメノナギナタ(長崎市)

1) 〒852-8521 長崎市文教町1-14, 長崎大学教育学部生物学教室

長崎市相川町 [長崎3, 4929-16-42], 1 m,  
May. 25. 2004, (No. 19660)

ヨーロッパ原産で、本州にまれに帰化していることが知られていたが、上記の地の砂浜海岸には、ハマヒルガオやコウボウシバの群落に混じって点々と生育している。しかし、漂着したゴミなどと似ており、全く目立たない。本種は根元から多数の桿が湾曲して叢生し、花穂も桿と同じように湾曲しており、特異な形態をしている。

283. ハナヌカススキ *Aira elegans* Willd. (イネ科)

西彼杵郡長与町齊藤郷 [大村4, 4929-26-19], 2 m, Apr. 24. 2004, (No. 19641)

小穂は2花からなり、ふつう1花しか芒がないが、上記の地で採集したものは2花とも芒があり、このようなタイプを区別して違う学名を用いる学者もいる。

284. ホウキヌカキビ (ケヌカキビ) *Panicum scoparium* Lam. (イネ科)

長崎市春日町金比羅岳 [長崎2, 4929-07-9544], 250m, Sept. 10. 2004, (No. 19710)

北アメリカ原産の帰化植物であるが、全国的にまれである。ニコゲヌカキビに似ているが、それより全体に大きく、毛が多い。

285. フシネキンエノコロ *Setaria gracilis* Kunth (イネ科)

長崎市文教町長崎大学キャンパス [長崎3, 4929-16-49], 10 m, Sept. 7. 1987, (No. 19757); 南松浦郡富江町太田 [玉之浦1, 4828-75-24], 2 m, July 23. 1988, (No. 19756); 西彼杵郡長与町まなび野 [長崎1, 4929-17-70], 60 m, Nov. 28. 2004, (No. 19761)

キンエノコロを大きくしたような植物で、花穂も長く、垂れ下がる。1980年代に長崎大学のキャンパスや福江島富江町に見られたが、繁殖力は弱く、各地に偶発的に生育している状況である。工事用の土砂と共に運ばれるのであろう。

286. メリケンガヤツリ *Cyperus eragrostis* Lam. (カヤツリグサ科)

諫早市仲沖町 [諫早4, 4939-20-16], 10m,

Oct. 24. 2003, (No. 19633); 長崎市大山町 [長崎4, 4929-06-39], 80m, May. 21. 2004, (No. 19638)

最近になって全国各地から知られるようになった。長崎市大山町の生育地はかなり山地に囲まれた空き地であったが、やや湿り気のある場所に生育している。長崎県にも各地に広がっているものと思われる。

287. ユリズイセン *Alstroemeria psittacina* Lehm. (ユリズイセン科)

諫早市久山町 [諫早4, 4930-20-00], 10m, Aug. 1. 2004, (No. 19709)

南米原産で古く園芸植物として渡来し、時々栽培されているのを見かける。日本ではこれまで本種が帰化した記録は知らないが、長崎市ではまれに社叢林や林縁部に完全に野生化しているのを見ることができる。花は黒紅色で半点がある。近年は同属の植物をアリストロメリアとして花屋で見かける。

288. ボタンウキクサ *Pistia stratiotes* L. (サトイモ科)

北松浦郡田平町野田免 [平戸4, 5029-04-46], 2 m, Nov. 21. 2003, (No. 19616); 北高来郡飯盛町後田名 [肥前小浜3, 4930-10-22], 2 m, Oct. 4. 2003, (No. 19634)

観賞用の水草として販売されているが、逸出したものが帰化している。冬の寒さに弱く、県下では今のところホテイアオイのように池の水面を被いつくすようなことはない。

289. オオトキワツユクサ *Tradescantia albiflora* Kunth (ツユクサ科) (図2)



図2 オオトキワツユクサ (長崎市)

長崎市小瀬戸町皇后島[長崎4, 4929-06-67], 1 m, June. 1. 2004, (No.19707) ; 同市三川町上角[長崎1, 4929-17-41], 50m, June 10. 2004, (No.19708)

本種の日本における帰化の記録は未見であるが、長崎県ではまれに野生化している。トキワツユクサに似ているが、それよりも全体に大形で、葉の縁には毛がある。園芸用に斑入りのものが導入され、それが野生化し、斑をなくしたものと考えられる。トキワツユクサのような繁殖力はないが、生育地では確実に広がっている。

290. アメリカウンランモドキ *Agalinis heterophylla* (Nutt.) Small ex Britton (ゴマノハグサ科) (図3)



図3 アメリカウンランモドキ(長崎市)

長崎市神ノ島町[長崎4, 4929-06-66], 2 m, Sept. 12. 2002, (No.19494)

北アメリカ南部原産で、日本では勝山・中西(2003)によって長崎県からはじめて記録され、和名が与えられた。上記の埋め立て地では一面に広がっている。佐世保市や崎戸町からも知られており、西日本に広がっているものと思われる。

291. ツタバウンラン *Cymbalaria muralis* Gaertn., Mey. et Scherb. (ゴマノハグサ科)

長崎市滑石三丁目[長崎4, 4929-16-66], 20 m, Sept. 4. 2002, 篠原裕志氏採集 (No.19423) ; 長崎市片淵二丁目[長崎1, 4929-17-01], 10m, Apr. 14. 2004, 池崎善博氏採集 (No.19755)

地中海原産であるが、ヨーロッパ各地に帰化している。長崎市にも各地の住宅地に帰化して

るのを見かけるようになった。栽培種として導入されたものが、種子で容易に繁殖するため逸出したものであろう。

292. アメリカアゼナ *Lindernia dubia* (L.) Pennell subsp. *major* (Rursh) Pennell (ゴマノハグサ科)

北高来郡森山町杉谷溜め池[肥前小浜1, 4930-11-60], 20 m, Sept. 14. 2002, (No.19512)

アゼナに似ているが、葉は明らかな鋸歯があることと、4本のおしべのうち、2本に葯がないことで区別できる。県内には広がっているものと思われる。

293. ヤセウツボ *Orobancha minor* Sm. (ハマウツボ科)

長崎市矢上町新山手[長崎1, 4929-17-35], 80m, July. 29. 2002, (No.19405)

地中海原産の帰化植物で、新しく造成されて宅地のシロツメクサ群落の中に生育していた。和名のように日本産のハマウツボ科のもの比べて植物体は細長い。

294. ヤナギバスズムシソウ (ムラサキイセハナビ) *Strobilanthes isophyllus* T. Anders (キツネノマゴ科)

長崎市神ノ島2丁目[長崎4, 4929-06-56], 1 m, Nov. 23. 2004, (No.19760)

池原(1979)は本種をヤナギバルイラソウ *Ruellia brittoniana* Leonard としており、和名、学名とも混乱している。もともと園芸用に導入されたものが、種子や根茎で容易に繁殖するので、民家近くに野生化しているのを見ることができ

る。

295. ナンゴクヒメミソハギ *Ammania auriculata* Willd. (ミソハギ科)

北高来郡飯盛町後田名[肥前小浜3, 4930-10-22], 2 m, Oct. 4. 2003, (No.19605) ; 南高来郡愛野町有明[肥前小浜1, 4930-11-72], 10m, Sept. 23. 2002, (No.19404)

北アメリカ原産で、九州各地に帰化しているという(清水ほか2001)。葉腋に花序を出し、紅紫色の花をつけることは近縁種と同じであるが、明らかに柄があることで区別できる。

296. シマミソハギ *Ammania baccifera* L.(ミソハギ科)

北高来郡飯盛町後田名 [肥前小浜 3, 4930-10-22], 2 m, Oct. 4. 2003, (No. 19603)

熱帯アジア原産で、西南日本に帰化している(清水ほか2001)。ヒメミソハギに似ているが、葉はそれよりも長く、基部は狭くなるが茎を抱かない。また、花弁を欠いていることにより区別できる。

297. ランタナ *Lantana camara* L.(クマツヅラ科) (図4)



図4 ランタナ(長崎市)

長崎市小瀬戸町皇后島 [長崎 4, 4929-06-07], 1 m, July. 1. 2004, (No. 19676)

県内にはよく栽培されているが、沖縄県や鹿児島県などでは野生化しているのを見かける。上記の産地も完全に野生化し、繁茂していた。

298. ナガミヒナゲシ *Papaver dubium* L.(ケシ科)

西彼杵郡長与町岡郷満永 [大村 4, 4929-26-19], 2 m, Apr. 24. 2004, (No. 19642)

4月下旬にオレンジ色のやや小さな花を咲かせるケシで、最近になって長崎県各地の道路沿いに見ることが多くなった。

299. イモネホシアサガオ *Ipomoea trichocarpa* Ell.(ヒルガオ科) (図5)

西彼杵郡西彼町俵頭 [神浦 1, 4929-35-89], 50m, Oct. 24. 2004, (No. 19696)

北アメリカ南部原産の帰化植物で、花はホシアサガオに似て、薄紅色で中心部は濃紅色となるが、花は直径2.5-3 cmとずっと大きく、観賞用になる。今のところ、帰化の記録は全国的



図5 イモネホシアサガオ(西彼町)

に少ない。

300. ハナハマセンブリ *Centaureum pulchellum* Druce (リンドウ科) (図6)

長崎市神ノ島町 [長崎 4, 4929-06-66], 2 m, Aug. 1. 2003, (No. 19731)

地中海原産の帰化植物で、類似種のベニバナセンブリと混同されている恐れがある。一年草で根生葉はなく、萼裂片が花筒のほぼ1/2となることなどで区別される。



図6 ハナハマセンブリ(長崎市)

301. オオイヌホオズキ *Solanum nigrescens* Mart. et Gal.(ナス科)

南高来郡深江町雲仙第2展望台 [島原 4, 4930-02-83], 950 m, Nov. 2. 2003, (No. 19743); 長崎市文教町長崎大学キャンパス [長崎 3, 4929-16-49], 15m, Dec 15. 2004, (No. 19762)

イヌホオズキとは花冠が基部近くまで切れ込み、裂片が狭いことで区別できる。また、アメリカイヌホオズキとは花が5-8個と多く、花冠は径8-12mmと大きいこと、葉も卵形または

広卵形で大きい。最近になってイヌホオズキ類の帰化植物が多く知られており、勝山 (2002) によってまとめられている。

302. フウセンカズラ *Cardiospermum halicababum* L. (ムクロジ科)

諫早市久山町 [諫早4, 4930-20-00], 10m, Aug. 1. 2004, (No. 19712)

熱帯アジアとアフリカの原産で、古くから観賞用に栽培されているが、各地で帰化していることが知られている。

303. ムギセンノウ *Agrostemma githago* L. (ナデシコ科) (図7)



図7 ムギセンノウ (長崎市)

長崎市文教町長崎大学キャンパス [長崎3, 4929-16-49], 20m, July. 10. 2004, (No. 19677)

ヨーロッパ原産で、観賞用に栽培されている。長崎大学のキャンパスには毎年見られる。

304. ホナガアオゲイトウ (イガホビユ) *Amaranthus powellii* S. Watson (ヒユ科)

北高来郡森山町本村名 [肥前小浜1, 4930-

11-70], 50m, Nov. 11. 2002, (No. 19742)

ホソアオゲイトウの似ているが、一般にそれより小さく、花序はあまり枝分かれない。また花軸は無毛であることなどにより区別される。別名イガホビユとあるように、花穂を触ると痛く感じるのも特徴である。牛小屋の近くに生育しており、周辺にはホソアオゲイトウも生育していた。飼料と共に移入されたのであろう。

## 引用文献

- 池原 直樹 1979. 沖縄植物野外活用図鑑. 2巻. 294pp., 新星図書出版, 那覇.
- 勝山 輝男 2002. イヌホオズキ類の分類. 関東雑草研究会報 (13): 2-9.
- 勝山 輝男・中西 弘樹 2003. ゴマノハグサ科の新帰化植物, アメリカウンランモドキ (新称). 植物地理, 分類研究51: 73-74.
- 松林 文作 1981. 長崎県シダ植物誌. 104pp., 長崎県出版文化協会, 長崎.
- 中西 弘樹 2000. 長崎県植物誌ノート (22). 長崎県生物学会誌51: 61-64.
- 中西 弘樹 2002a. 長崎県植物誌ノート (25). 長崎県生物学会誌54: 1-4.
- 中西 弘樹 2002b. 長崎県植物誌ノート (26). 長崎県生物学会誌55: 1-4.
- 清水 矩宏・森田 弘彦・廣田 伸七 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 554pp., 全国農村教育協会, 東京.
- 外山 三郎 1980. 長崎県植物誌, 321pp., 長崎県生物学会, 長崎.